

日サ協発第 220086 号  
2022 年 6 月 23 日

関係各位

公益財団法人日本サッカー協会

国際サッカー評議会(以下、IFAB)から 2022 年 6 月 16 日付回状第 25 号をもって 2022/23 年の競技規則改正を含む、第 136 回 IFAB 年次総会における決定について通達されました。

通達自体の日本語訳(概略)は、下記のとおりです。競技に直結する規則の改正の数は少ないものの、2020 年 5 月の IFAB 通達により、「第 3 条ー競技者」において使える交代要員を最大で 3 人から 5 人とした暫定的な改正を、今回の改正で正式に第 3 条の規定とした注目すべき改正がありました。これまでどおり、サッカー競技にかかわる関係者、特に競技者、監督/コーチそして審判員はこれらの改正を十分に理解した上で、プレー、指導、そしてレフェリングに携わっていただきたく、お願い申し上げます。

IFAB からの回状に添付されている「2022/23 年競技規則ー概要と詳細」(添付 1)は、必要に応じ「日本協会の解説」を加えたものを本通達に添付しています。各協会、連盟等において、加盟クラブ、チーム、審判員等関係者に周知徹底を図られるよう、併せてお願い申し上げます。

これらの改正等は、昨年より競技者、チーム役員および審判員が競技規則の変更を習熟する時間を取るために、国際的には 2022 年 7 月 1 日から有効となっています。日本サッカー協会、各地域/都道府県サッカー協会等が主催する他の試合については、添付 2 のとおり適用されます。

なお、今回の競技規則の主な改正についての説明用映像を本協会のホームページに7月初旬 までに掲載する予定です。

## 記

### 第 136 回 国際サッカー評議会年次総会の決定について

当初の年次総会(AGM)は延期されたが、2022 年 6 月 13 日(月)、IFAB はドーハにおいて第 136 回 AGM を開催した。年次総会は、FIFA のジャンニ・インファンティーノ会長が議長を務め、IFAB の5つの構成メンバーである FIFA、スコットランド FA、(イングランド)FA、アイルランド FA、ウェールズ FA からの代表者が出席した。

競技規則の変更案は既に IFAB の理事会メンバーにより承認され、2022 年 3 月 25 日付 IFAB 回状 24(<https://downloads.theifab.com/downloads/circular-24?l=en>)をもって通知されているところだが、AGM の出席者によって、正式に裁可された。

### 公益財団法人 日本サッカー協会

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷 3-10-15) JFA ハウス  
Tel.050-2018-1990 Fax.03-3830-2005  
[www.jfa.jp](http://www.jfa.jp)

第 3 条(競技者)の改正が追加され、競技会が氏名を届けられる交代要員の数を最大 12 から 15 人に増やせることについても承認された。

2022/23 年の競技規則のすべては IFAB のウェブサイトやアプリからダウンロードでき、また、直接アクセスすることもできるようになっている(<https://downloads.theifab.com/downloads/laws-of-the-game-202223?l=en>)。

出席者はまた、世界レベルで実施されている「脳振盪による交代(再出場なし)」の追加に関する試行の暫定的分析結果について、説明を受けた。140 を超える競技会がこの試行に参加したが、(昨年の)年次事務会議において、科学的に有効な判断を下せるように十分な医学的データを収集すべく、試行を 2023 年 8 月まで延長することを決定し、AGM としてこの決定を支持することとした。「脳振盪による交代(再出場あり)」についても再検討されたが、出席者は、実際に脳振盪となった、あるいはその疑いがある競技者を退出させ、その試合では引き続きプレーさせないようにするため、今後も「再出場なしの交代」に焦点をあて試行を継続していくべきであると合意した。試行の実施手順が正しく適用されるよう、さらなる教育が必要であることについても合意された。

更には、ビデオアシスタントレフェリー(VAR)技術をより多くの競技会で用いることができる VAR Light (簡易な VAR)の技術革新について、FIFA がその最新情報を説明した。VAR Light は、既に 100 以上の試合で試行されている。また、ビデオ審判員がオフサイドかどうかについて、より速く、また精度高く、判断できるシステム(いわゆる、“半自動オフサイドテクノロジー”)の成功についても説明した。

また、施設基盤や予算が非常に限られた競技会での審判員を援助する「ビデオサポート」の提供など、その他の技術コンセプトの試行も検討された。より詳細な情報は、今後提供される。

その他、試合中にレフェリーの特定の判定を解説する可能性、よりフェアにプレー時間を計算できるかどうか、またキックインなどの試行についても話し合われた。同様に、FIFA から、限定的であるものの、現在進められているオフサイドの考え方の修正案試行についての最新情報が紹介された。

すねを少ししか保護することができない、とても小さなシンガード(すね当て)の使用について、懸念が示された。これは、最終的にはクラブやチームと連携してそれぞれの競技者の責任で行うべきものではあるが、AGM としては、競技会が競技者に適正な大きさのシンガードの着用を勧められるようにしたい。

### **改正の可能性が高い競技規則や関連プロセスの提案について**

IFAB は、サッカーの試合の継続的な発展に取り組み続けるが、そのためにも導入の実現性が高いアイデアや競技規則改正の可能性について試行することがある。しかしながら、有効な結果を確実に得るため、試行は合意に基づく実施手順および要件を用い、かつ適切な管理の下、実施されなければならない。つまり、競技規則の一部変更の実施、または試行は、IFAB に承認されていなければならない。競技会においては IFAB と FIFA の参画なく、そのような実施や試行を進めることはできないことを、すべてのサッカーのステークホルダーは知っておかなければならない。競技規則の変更につながる提案の実施手順については、近くお知らせする。

## **2022/23 年競技規則は、7 月 1 日から有効**

2022/23 年競技規則が有効になるのは、**2022 年 7 月 1 日**。この期日以前に始まる競技会については、変更を早めて施行することも、また、次シーズンが始まる前までであれば、施行を遅らせることも可能である。

我々はグローバルな意見交換を維持することとしている。それによって競技規則が引き続き、より良いものになり、すべてのレベルのサッカーのピッチ上で、フェア、インテグリティが促進され、また、守られることになる。

みなさま方のご協力に感謝する。何か疑義、質問あれば、ご連絡いただきたい。

以上

国際サッカー評議会  
事務局長 ルーカス・ブラッド

[添付]

別紙 1 : 2022/23 年競技規則変更の概要と詳細

別紙 2 : 2022/23 年競技規則の適用開始日